

教育目標 しっかり学ぶ子 思いやりのある子 粘り強い子

重点目標 学んだことを生かす子の育成

キーワード わかる気 その気 できる気



カムイト

猿払村立浅茅野小学校便り

令和4年10月31日発行

学芸会を終えて ～「見方・考え方」～

校長 芳賀重紀

10月9日（日）に予定通り、浅茅野小学校の学芸会を実施して無事に終わることができました。コロナ禍ということもあり昨年同様、来賓や地域の皆様には、ご遠慮していただきました。保護者の皆様には、子どもの練習をご家庭で見てください、ありがとうございました。

学習指導要領の中に、学芸会という言葉はありませんので、学芸会は、特別活動の中の文化的行事に当てはまります。その内容は、日頃の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うことと位置付けられています。浅茅野小学校の学芸会の目的は、発達段階に応じた目標として、①自分の役割を理解し、意欲的に練習に取り組むことができる。②目標をもって達成するために、振り返りをして次に生かそうとする。となっています。

学芸会は、日頃の学習活動の成果を見てもらう場面として設定しているものの、教師の負担が大きく、一堂に会して発表するので、子どもたちの学びの過程を見てもらうわけにはいきません。どうしても教師主導で進めることが多く、見栄えを充実させることに力を注いでしまいがちです。大切なのは、子どもたちにとって、何のために学芸会を行うのかであり、子どもたちが学びの過程で、もがき苦しみながらも「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を獲得していく過程そのものに価値があります。「見方・考え方」とは、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという本質的な中核をなすものであります。

＜学芸会に向けて、子どもたちの成長が見られた場面をいくつか紹介します＞

- 南中ソーランの個人練習では、一人一人がタブレットで振り付けの確認をしながら繰り返し練習し、高学年児童と教師は、振り付けの細かいところを確認して、中学年に指導している姿が見られました。
- 練習で失敗したことを振り返り、ポジティブに考えて取り組むようになりました。
- 器楽演奏では、周りの音を聞いて、自分でリズムを合わせたり、音の強さを調整したりしていました。
- 劇練習では、お客さんを意識して、声の大きさやうごきを考えて工夫する場面が見られました。
- 太鼓では、自分の演じた作品を見ながら振り返りをして、改善するところを確認して次の練習に生かしていました。

子どもたちは、学芸会を通して、学びの過程で成長している自分を実感できたのではないかと思います。「見方・考え方」は、教科等の学習と社会をつなぐものなので、子どもたちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることこそ、われわれ教職員が求められることだと思います。

学芸会

10月9日（日）に今年度の浅茅野小学芸会が行われました。今年も、各学年による合唱や器楽演奏、複数学年をまたいで行われた演劇など、盛りだくさんの内容でした。どの演目も、子どもたちが一生懸命に練習した成果が発揮され、観客の皆さんを魅了していました。

今年は高学年が6年生1人という状況でしたが、大人でも難しい落語に取り組み、約20分ほどの噺を一人で演じきったのは圧巻でした。

練習では、上級生が下級生に教えたり、学級で互いに教えあったり、学びあう姿勢も見え、全員が一丸となって取り組むことができた学芸会でした。

保護者の皆様には、大きな拍手をもって子どもたちに声援をいただき、また、子どもたちが毎日元気に練習に取り組めるよう、陰ながらご支援いただきました。ありがとうございました。



↑ 1・2年合唱



↑ 3～6年南中ソーラン



↑ 3・4年器楽



↑ 3～6年合唱



↑ 全校合唱



↑ 6年器楽



↑ 1～4年演劇



↑ 1・2年和太鼓



↑ 6年落語

鬼小交流

10月17日（月）に今年度第2回目の全校鬼小交流が行われました。鬼小児童との授業交流を楽しみにしていた子どもたちは、自ら積極的に関わって、いこうとがんばっていました。次回は、3学期に行われます。

3、4年生は算数の授業→



↑ 6年生は鬼小高学年児童に落語を披露

↑ 1、2年は体育でドッチボール

11月 行事予定

- 2日（水）校内作文発表会
- 3日（木）文化の日
- 4日（金）少年の主張大会（オンライン）
- 5・6日（土日）小中学生書道絵画展
- 9日（水）児童会
- 10日（木）職員会議
- 11日（金）なかよし号 交流センター清掃
- 16日（水）児童会
- 23日（水）勤労感謝の日
- 23日（金）秋分の日
- 29日（火）一輪車検定